



Mantle は、エレキベース向けのプレミアムプリアンプ兼DI。Ian Martin Allisonと密に協力して開発されました。

楽器に完璧な音響基盤を提供するように設計されており、ステージでの演奏、スタジオでの録音、あるいは自宅での音作りなど、あらゆる環境でスタジオクオリティの洗練されたサウンドをもたらします。

ペダルの電源には、9V DC センターマイナス、500mA のもののみを使用してください。
Walrus Audioエフェクターの電源は、アイソレーテッドパワーサプライの使用を推奨します。
デジチェーン式のパワーサプライは推奨しません。



“私はDIマニアで、恐らく50台以上のDIやプリアンプを所有しています。それぞれに優れた点はあるのですが、どれも重要な部分が欠けていたり、機能を詰め込みすぎて使いにくかったりして。満足できるものに出会えませんでした。
これが私がMantleを作ろうと決めた理由です。そして自分が必要としていた製品がついに実現しました。
そしてついに、自分の理想どおりの最高のツールが完成しました。”

「Mantle」という言葉を調べると、いくつかの意味があります。
ひとつは地球の内部で、地殻と核の間にある層を指します。これは、リズムセクションの土台としての役割を象徴しています。
また、「重要な役割をある人から別の人へ引き継ぐ」という意味もあります。私はこれを、どんな状況でも支えとなり、力強い低域と素晴らしいトーンを提供する責任と捉えています。
さらに、「誰かの家の中での名誉ある場所」という意味もあります。焦点となる場所であり、重要なアートや大切な思い出を支える堅実な土台です。



..... **Mantle**は見た目がシンプルで、操作も直感的に理解できますが、**3つの大きく美しいノブ**に惑わされてはいけません。内部は非常に緻密に設計され、洗練されています。妥協は一切なく、コンポーネントも最高品質のものが使われています。オーディオファイル向けの高品質部品と設計思想が詰め込まれた逸品です。
特に注目すべきは、3つのカスタムクリック式ロータリースイッチです。大きく刻みの入ったアルミ製ノブは操作感が素晴らしく、バンドのメンバーがケーブルを引きずってペダルボードを通過しても、誤って動かされる心配がありません。

Mantle は2つのカスタム巻きトランスを搭載しており、Neve 回路のような力強い低域と中域を提供すると同時に、クラシックなAPI プリアンプのような抜けの良い高域も実現しています。この組み合わせのクラシックスタジオサウンドは、私にとってずっと夢でした。私はスタジオで Neve 1073 や API 312 のプリアンプが大好きだからです。今では、ペダルボードに収まる設計とレイアウトのおかげで、スタジオでもステージでもこれらのサウンドを手に入れることができます。
中央の GAIN ノブでは、キラキラとしたクリーントーンから、控えめなトランス飽和による太い音まで自在にコントロールでき、決して不快に歪むことはありません。さらに、サイドの ACTIVE / PASSIVE パッドと組み合わせることで、GAINノブのどの位置でも、音楽的で刺激的なトーンが得られます。

私は以前から、シンプルに使えて、しかも複数の問題を最小限の操作で解決できるDI用EQをずっと望んでいました。Mantle は、2種類のEQを採用することでこれを実現しています：バンドパスとローパス / ハイパスフィルターです。BASSとTREBLEのノブでは、12時（ダイヤル6の位置）がフラットです。ここからノブを時計回りに回してブースト領域に入ると、それぞれのバンドは最初は非常に広く、ほぼシェルフのように、楽器の下部または上部を均等に持ち上げます。

さらに回していくと、EQの効きがよりピンポイントになり、音が「ぐっと締まる」感じになります。それでも広めのベル型のかかり方なので、極端にブーストしてもパワフルで音楽的なまま、濁ったりギラギラ耳障りになったりしません。

EQノブを12時（ダイヤル6の位置）より下に回すとカット動作になり、ノブはローパス / ハイパスフィルターとして働きます。

- BASSノブ → 低域の暴れたサブベースを整える
- TREBLEノブ → キンキンした高域を抑える

この2つのノブを組み合わせることで、ほぼ無限に近いEQの調整が可能になり、どんな設定でも音楽的で使いやすいサウンドを維持できます。

この美しいプリアンプが存在することに、私は本当にワクワクしています。皆さんも、Mantle が皆さんのリグの頼もしい基盤であり、中心的存在になることを、私と同じくらい楽しみにしてくれることを願っています！



CONTROLS

BASS と **TREBLE** のノブは基本的に同じ操作感ですが、それぞれ対応する周波数帯に作用します。

BASSノブをブーストする場合(ダイヤル7~11の位置)
約60Hzを中心に、Qが中くらいのベル型ブーストがかかります。
各ポジションで +3dB ずつ増加し、最大で +15dB までブースト可能です。

BASSノブをカットする場合(ダイヤル5~1の位置)
ローパスではなくハイパスフィルターがかかり、特定の周波数で-18dB/octの傾きで低域をカットします。対象周波数は30Hz、50Hz、80Hz、100Hz、120Hzです。

TREBLEノブも同様の仕組みで、高域に作用するブースト/カットが可能です。

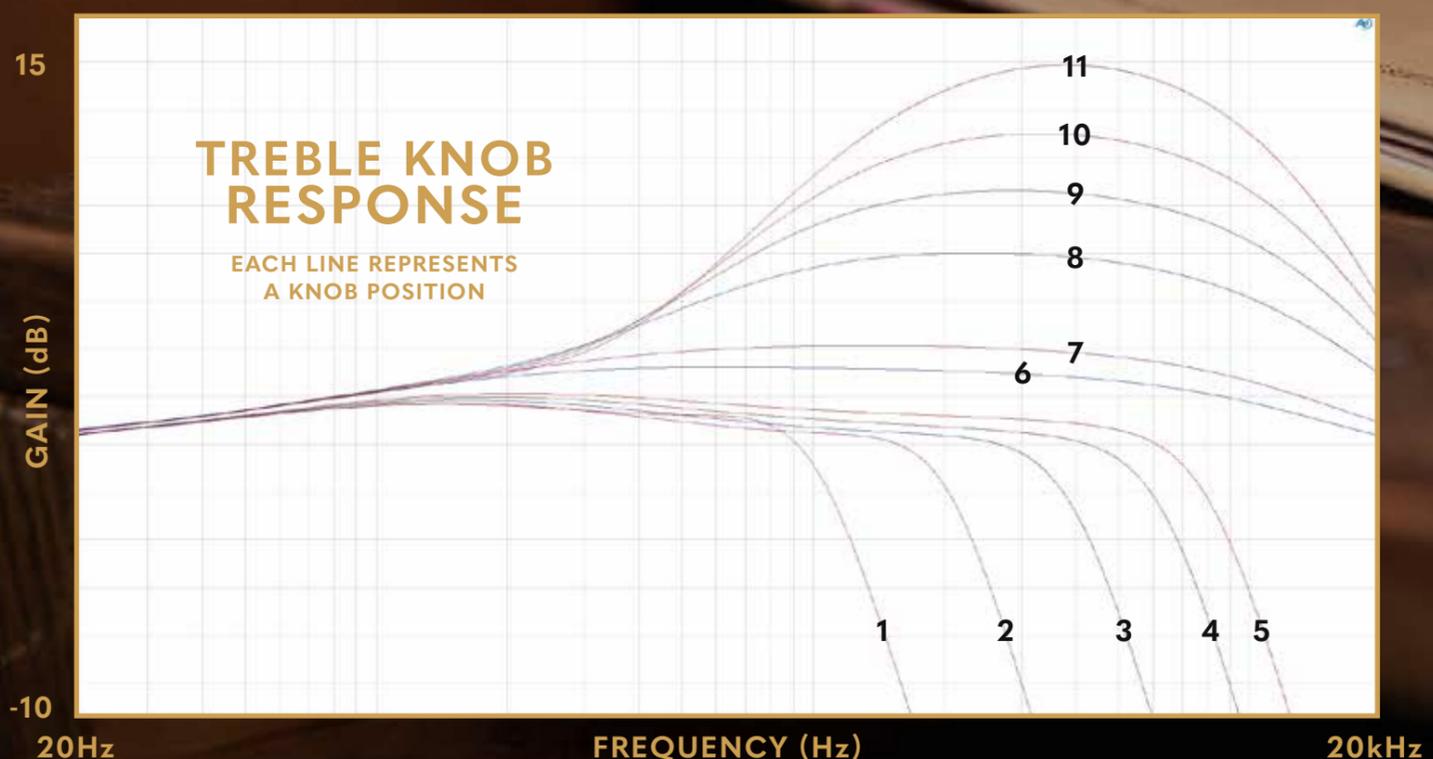
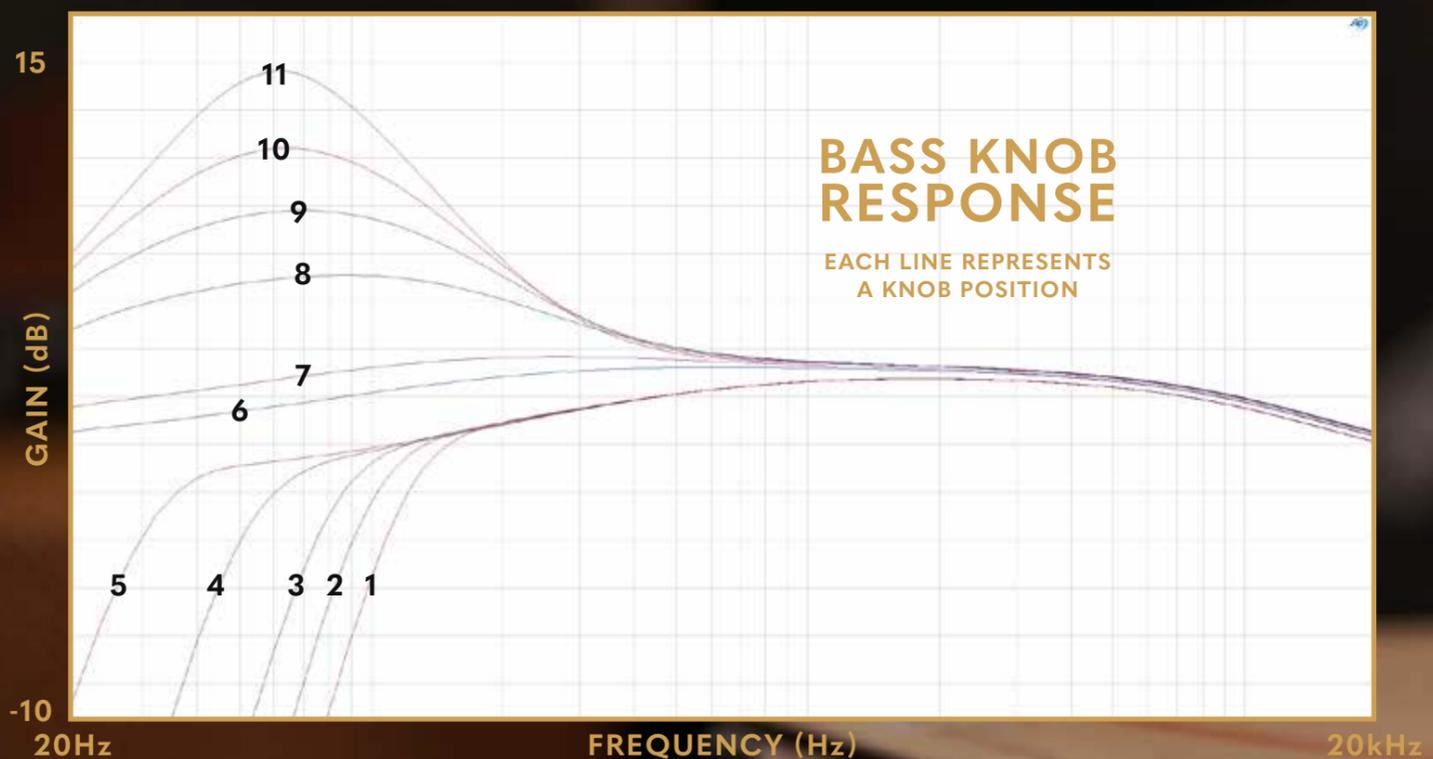
TREBLE ノブも BASSノブ と同じ操作感ですが、作用する周波数が異なります。

ブースト(ダイヤル7~11の位置)
約 4.9kHz を中心とした広帯域のベル型フィルターがかかり、各ポジションで +3dB ずつ増加、最大で +15dB までブースト可能です。

カット(ダイヤル5~1の位置)
ローパスフィルターがかかり、対象周波数は 8kHz、6kHz、4kHz、2kHz、1kHz です。

つまりTREBLEは高域を調整し、BASSは低域を調整する構造になっています。

これらのノブは互いに独立して操作できるため、自由に組み合わせることで幅広いトーンの調整が可能です。



GAINノブは、回路全体のゲイン(増幅量)を調整します。このゲインは、入力トランスと出力トランスの両方によって生み出されるもので、まさに磁気を巧みに操るサウンドです。このノブは -6dB から +23dB までのゲイン調整が可能です(両方のEQノブがダイヤル6の位置のとき)。

JFETバッファとトランスゲインの組み合わせにより、力強く豊かなトーンが得られ、ベースの音に生命感を吹き込みます。



GND (GROUND) LIFT

XLR出力を使用するときにGNDスイッチをオンにすると、XLRのグラウンド(GND)が回路のGNDから分離されます。これにより、グラウンドループによるノイズの発生を抑えることができます。

ACTIVE / PASSIVE SWITCH

ボタンを押すと、入力信号に -10dB のパッドが挿入されます。これにより、アクティブベースなど信号が強い楽器を使用する際に、より広いヘッドルームを確保できます。ボタンを戻すと、パッドはバイパスされます。



INPUT: 1/4インチ TS アンバランス入力(ハイインピーダンス)

OUTPUT 1: 1/4インチ TS アンバランス出力

OUTPUT 2: XLR オス バランス出力

※両方の出力は同時に使用可能です。

例えば、XLRをPAのフロントに送り、1/4インチをアンプに接続することができます。

START HERE

どこから始めればいいのかわからない？
イアンのお気に入り作品から始めて、インスピレーションを得てみてはいかがでしょうか。



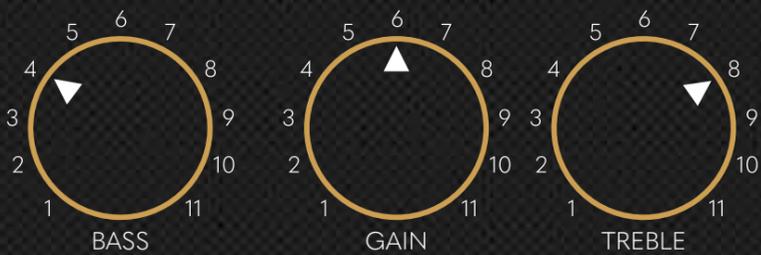
IMA SIGNATURE

これはほぼすべてのベースやジャンル、状況で私が使う定番のセッティングです。低域をしっかりブーストし、少し高域を足し、GAINで好みに合わせることで、Mantleが持つ大きく美しく立体的なクリーントーンの魅力をしっかり体感できます。



BIG & BASSY

低音が物足りない楽器にボリューム感をプラスするのに最適です。



TIGHT & BRIGHT

低音がボヤけているときに、低域を引き締め、中域と高域にハリと存在感を加えるのに最適です。



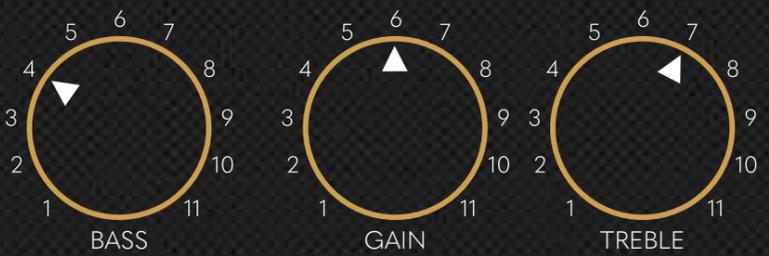
CAB FILTER

このセッティングは、耳に刺さるようなシャリシャリしたオーバードライブやファズの音を温かくするのに最適です。EQのカット範囲がローパスフィルターとして機能するため、TREBLEノブをカットすると、音の尖った高域のザラつきをやさしく抑えることができます。



RUMBLE REMOVER

この非常に控えめなセッティングでは、BASSノブのカット範囲にあるハイパスフィルターを活用し、30Hz以下の周波数を抑えます。これにより、キャビネットやPAのサブウーファーがより効率的に動作し、すでに低域が豊富なベースでも音が整理されます。



NOT A BASS?

ベース以外の楽器をMantleに通したいときにぴったりの美しいセッティングです。低域のカットと広めの高域ブーストが絶妙に組み合わせられており、アコースティックギター、エレキギター、シンセサイザーなどで驚くほど効果的にサウンドを引き立てます。



SUB DESTROYER

つまり、一度はぜひ試してみるべきセッティングです。ただし、音量や低域がかなり強くなるので、FOHにはあらかじめ注意を伝えておくことを忘れずに！





SAPPHIRE TRANSFORMERS



Mantleには、Walrus Audio独自設計によるカスタム仕様のトランス“Saphire Transformers”を搭載されています。

長年の研究、試聴、改良を経て、Walrus Audioのエンジニアチームは、新しい入力・出力トランスフォーマーで自社設計の新たな基準を打ち立てました。

これにより、クリエイターが革新と創造性を刺激される最先端のツールを手にできることを約束しています。

Neveの設計に触発されたこの入力トランスフォーマーは、大きな信号でも歪みを加えずに扱うことができ、常にクリーンで力強く、ノイズの少ない信号を維持します。

高品質なコア素材と銅巻線を使用することで、周波数全体にわたってクリアなパフォーマンスを発揮するための十分なゲインを実現しています。



Mantleのアーキテクチャは、明瞭さを保つように緻密に設計されており、音楽的なトランス特有の色付けを提供します。これにより、音色の前段(入力側)と最終出力の両方を自在にコントロールすることができます。

出力トランスフォーマーは、API 312 の出力段に影響を受けた設計です。これにより二つの効果があります。

- ・信号を静かで効果的にバランスさせる
- ・増幅された信号に豊かな倍音成分を付加する

入力トランス同様、コアの種類やカスタム巻線方式により、長いケーブルでも信号ロスなく強い信号を伝送できます。

TECHNICAL INFO

- Power Requirements: 9VDC, 500mA, Center-Negative, 2.1mm. Power supply not included.
- Internally boosted to +24V for higher headroom.
- Input Impedance: 1M Ω
- Output Impedance: 150 Ω Balanced, 150 Ω Unbalanced
- Noise Floor: Balanced -101dBV, Unbalanced -94dBV
- THD @ 1kHz 1Vrms: 0.04%
- Frequency Response: 20Hz - 20kHz
- Gain Range: -6dB \rightarrow +23.3dB (with both EQ knobs at Position 6).
- EQ Boost Range: 0dB \rightarrow +15dB
- The use of an isolated power supply is recommended for powering all Walrus Audio pedals. Daisy chain power supplies are not recommended.
- Exact Size of the die-cast enclosure (with knobs): 6.09" x 4.7" x 2.28" (154.78mm x 119.35mm x 57.98mm)

